

支部たより

発行
東北大学電気・通信・電子
同窓会東北支部
仙台市荒巻字青葉
電話 22-1800
発行責任者
真野国夫
(題字 高野知彦氏)

福島弘毅先生御退官

福島先生は、玉川大学のたつての懇望により、先般三十七年の長きにわたった東北大学を退官され、玉川大学工学部教授・工学研究科長に就任されました。先生は、昭和九年東京帝国大学を卒業後東北帝国大学電気工学科に勤務され、昭和十二年助教、昭和十八年教授となられました。永年電気・通信・電子工学の各分野において、卓越した御見識と情熱をもって研究と教育に尽力されたとともに、学会・工業界にも指導的役割を果たしてこられました。先生の御研究は磁歪振動の通信工学への応用、更に最近では、システム制御工学など広い範囲にわたる数多くの独創的研究に多大な成果を挙げてこられました。又、通信工学科・大学院工学研究科・一般電気工学科の創設とその整備の充実に力を尽され、主任教授・大学院専攻主任・大学院委員会専門委員長として、後進学術の訓育に情熱を傾けてこられました。さらに、工学部の青葉山移転に伴ない、片平丁キャンパスに残ることになった電気通信研究所と、電気系三学科の協同研究体制の改革に指導的役割を果たしてこられました。なお、先生は昨年還暦を迎えられたが益々御壮健であり、御退官後も東北大学非常勤講師として後進の指導にあたられ、更に教育に研究に御活躍されております。

電気系の近況

斎藤伸自

電気工学科(七講座)、通信工学科(八講座)、電子工学科(六講座)をまとめて電気系と呼称します。これに電気通信研究所(十部門)、応用情報学研究施設(一部門)、一般電気工学講座が加われば、研究教育面での一大共同体が形成されます。

今年も卒業式を旬日のうちにひかえて、電気系学部に学生百五十二名、電気及通信工学専攻と電子工学専攻の修士課程修了生四十七名、同博士課程修了生二十三名を巣立たせることになり、教師の宿命とはいえないが、いとど感傷にふける季節となりました。主任(麻生、斎藤、吉田)および専攻主任(虫明、西沢)教授各位においては、その感

なほおひとしおのことと想像されます。本年度一年を振り返りますと、やはり、いろいろのことがありました。身近かなことから報告します。まず、昨年三月高野知彦教授

が定年で退官され、現在は東北学院大学工学部の教授として、引き続き教育と研究に専念しておられます。また、全く突然のことでしたが、福島弘毅教授が、定年を待たずに六月で(五月に還暦を迎えられた)退官され、玉川大学の大学院博士課程新設のため中樞的メンバとして、同大学に移られました。両先生とも、非常に永い間、電気系の教授として後進の指導に務められた、名譽教授の称号が贈られました。

また、電気工学科後藤治助手と通信工学科佐野民治事務官も、定年により、昨年三月に退官し、現在は非常勤で青葉山に通っています。現職教官の異動の主なもの、小野昭一助教が教授に昇任して電気通信研究所に移ったこと、松村和仁、高浪五男、横山隆三助手が通信工学科の助教に、樋口竜雄、針生尚、星宮望助手が電子工学科の助教に昇任したことです。教授に昇任したことです。また、昨年四月に工学部大泉充郎教授が通研から移り、この四月には東北大学の研究センターに昇格する予定になっています。なお付け加えますと、大泉先生には、昨年の秋の選挙で学術会議会員に当選され、活躍が期待されています。松尾教授が在外研究員として、昨年九月から一年の予定でスタンフォード研究所に滞在しています。一方学術会議の招へい研究員としてウイスコンシン大学スワット教授が夏の三ヶ月間、来学していました。日常的には、二村教授が工学部評議員として、和田教授が東北大第二改革委員として、佐藤教授が工学部改革委員として、八田教授が工学部カリキュラム専門委員として、吉田教授が電気系運営委員の議長として、その重責を任うし、ご苦労の程が察せられます。青葉山に移ってから早や五年が経ちます。遅々とはしてありますが、生活環境もだんだんと整備されて、緑の部分も色濃く、蔵王や泉

大学院電気及通信工 電子工学専攻の近況

虫明

昭和四十六年度の専攻主任として、通研の西沢潤一教授と二人で大学院の御世話をして頂いた。その間に進捗状況を御報告する。今年度の在學生は専攻を合わせ、修士課程九〇名、博士等である。専攻主任としての主な仕事は、志願者は試験、および論文審査等の御世話であったが、教官各位の援助により、いずれも大過なく終えることができた。まず、就職について報告

同窓会の近況

高木

本年三月一五二名の学部卒業生、四七名の修士課程修了生、二三名の博士課程修了生を迎へ、本同窓会も四千名を数える会員をもつ大世帯に発展して来た。大正十一年第一回卒業生(十名)から数えて五十一年目である。現在会長に永井健三先生、庶務幹事に佐藤利三郎教授(通信工学科)、会計幹事に高木相助教授(通信工学科)(昭和四十七年度から交代の予定)が本部役員である。本会には支部として東北支部、北海道支部、東京支部、大阪支部の四つが結成されている。とくに東京支部は多数の会員が所属しており、毎年秋に

支部長を終え

今年度二回目の支部長を勤めさせていただいたが、全ては佐藤、彰名の両幹事

学並に

康人

本年度修士修了者中二十六名が就職... 二十一名が博士課程... 修了者として約が...

任清水教授の献身的な御協力によるものと深く感謝している。このほか、昨年十一月には外国人留学生の入学試験を、また、本年三月には、博士編入学試験を、いずれも二名の受験者のために進んだ。

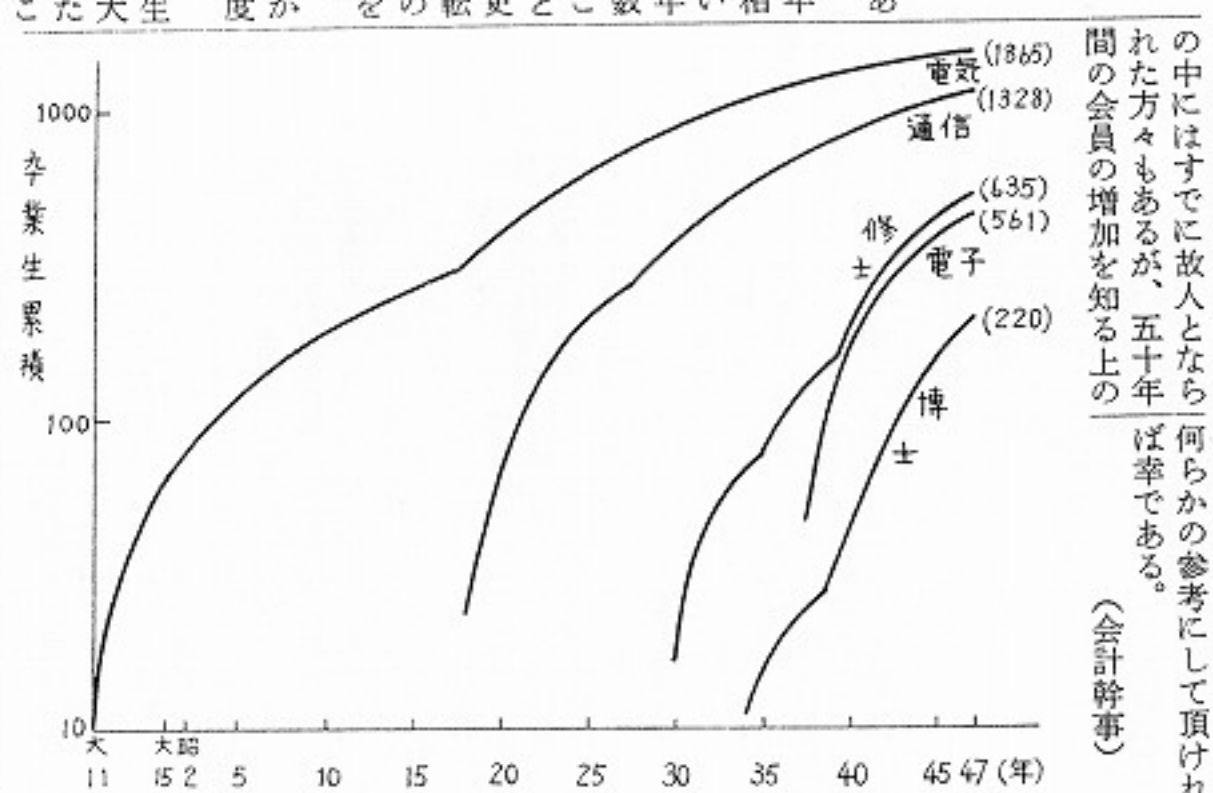
現在、電気系大学院専攻の教育は、電気系三学科、電気通信研究所、ならびに工学部の関係講座の教授、助教七十四名が担当して、その運営は、全員の集まって開催される大学院教育会議を中心に行なわれている。私共が本年度の専攻主任の役目を無事果たすことができたのは、上記教官各位の強力な御支援によるものであつて、ここに厚く御礼申し上げたい。

最近、外国では各自国内の情勢のきびしさから、この際最も必要なことは道義心、人情の豊かさであるという論議が真に国を憂う人々の間でなわれ、その問題の具体的方法が検討されていることである。

況

相

会本部としては隔年名簿を作成し会員相連絡の一助として、今年には新名簿作成の年であるが、会員の数、移動も激しいこと、正確を期することである。住所を変更する場合は必ず本部へ転通知を頂き度いものだけ活用して頂き、ある場合は多少にかず御連絡を頂き度



のの中にはすでに故人となられた方々もあるが、五十年間の会員の増加を知る上の何らかの参考にして頂ければ幸である。(会計幹事)

諸般の事情と怠慢で今年私は何もせず誠に申し訳なく思っている。その罪はろほしに、今後出来るだけ下働きをさせていただいて、東北支部のための最後の努力をさせていただき、それで今迄のことはぜひお許しをいただきたいとお願ひする次第である。

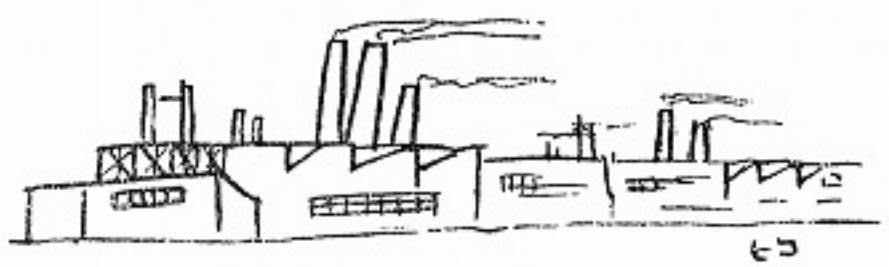
るにあたって

支部長 真野 國夫

立案運営していただ度支部長・幹事・昭様の御協力により大過なく七年幹事諸氏、本部この一年を過ごさせていた

だき心から御礼を申し上げる次第である。大正十一年に東北大学電気工学科の大先輩達が一回生として卒業され、その後昭和十九年九月に通信工学科がこれに加わり、昭和十七年には電子工学科がさらに加わり、ついで大学院卒業の諸君、それに教官

最近、外国では各自国内の情勢のきびしさから、この際最も必要なことは道義心、人情の豊かさであるという論議が真に国を憂う人々の間でなわれ、その問題の具体的方法が検討されていることである。



東北大学の近況

二 村 忠 元

一、加藤典雄新学長就任
 本川前学長の逝去(四六二、三)に伴う後任学長の選挙は、四月十八日(二次投票)、四月十八日(二次投票以後)の両日行なわれ、加藤前理理学部長が選出された。この学長選挙は現行基準(学長被選挙資格者は学長、専任教授、専任教授、助教授、二名連記の一次投票で十五人を選び、二次投票で過半数を得た者を当選者とする。過半数を得た者がいないときは上位三名について投票する。)によって行なわれたが、本学第二改革委員会(和田、武内両教授参加)より、新選考基準案が評議会に近く提案される予定である。この

選挙においては、第一次候補者(十五名中六名が辞退)の一人として、菊地喜之助が、結局第四次選挙まで行なわれ、加藤理理学部長と河上工学部長の決戦となり、加藤教授が選出された。加藤学長は、加藤多喜雄元工学部長及加藤愛雄両名が教授の弟さんにあたり、氏の略歴は次の通りである。明治四十四年生、昭和十年東北大学理学部卒、同十四年助手、同二十二年教授、同四十二年学生部長併任、同四十四年理学部長、同四十六年五月一日学長。加藤学長はスポーツマンとして有名で、健康そのものといった感じで、大学といった中広い意見の混在する中

で、そのまとめ役には格構な方であるように思われる。学生との諸交渉も学生部長の経験などを生かされ上手にやっておられ、その点、氏の専攻する動物生態学の名に背かないものである。と言っている人もいます。その就任挨拶での基本姿勢は、「東北大学の持つ数々の課題を自らの力で解決して行くことを期待し、自分自身もこれに力を尽したい。」ということである。

二、東北大学総合整備計画の現状
 昭和三十八年から始まった本学の総合整備計画は、すでに八年の歳月を経たが、この間順調に進捗し、大体七割方完了した。大きなものとしては、工学部の

電気通信研究所だより

通研広報委員会

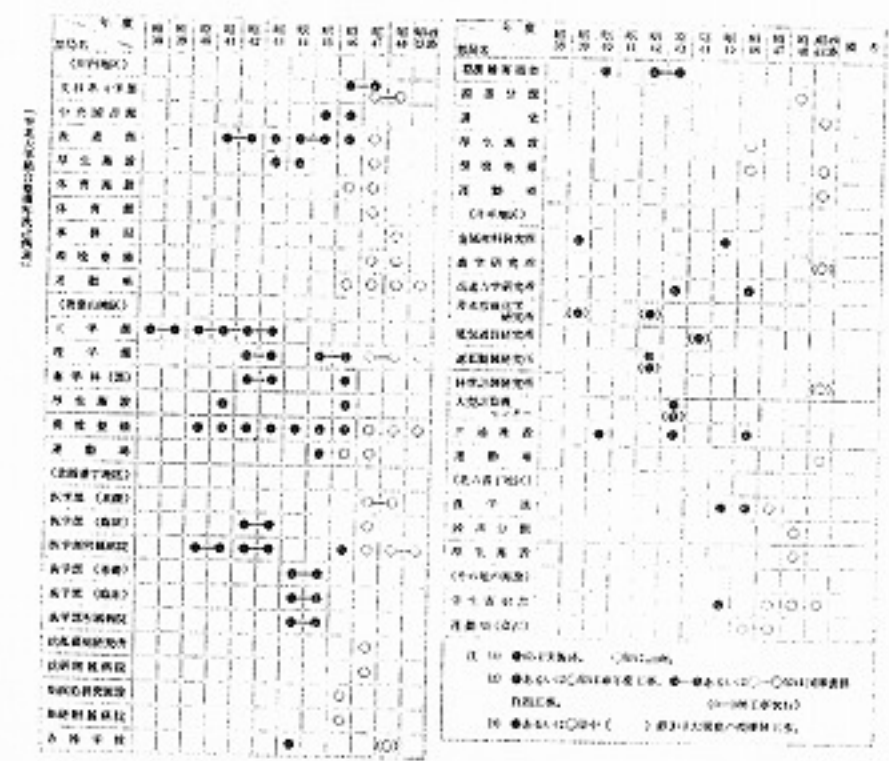
昨年の支部だよりでは、研究所の現状と題して、御報告しました。それから一年、大きな変更はなく、研究室移動の過渡的状態も終ってようやく落ち着いた状態といった現状です。たゞ建物周辺の整備は予算の関係もあってなかなか進まず、とくに最近増加の著しい車の処理は大きな問題でした。しかし、通研一号館北側のもともと応用理学教室の木造建物の撤去について跡地の整備が進み、最近やっと広々とした念願の駐車場が完成しました。今迄建物の前に横に所狭しと車が放置され、一寸青葉山へ講義に出掛けようものなら帰ってきても車の置き場所が占領されて無く、右往左往して不愉快な思いをさせられたものです。とくに青葉山の先生方には大へん御迷惑をお掛けしてしまいました。それも一応解決しましたが、今後数年先には多分これも狭くなってしまうでしょう。ともかく問題は次から次へと絶

え間なく生れ、繰返されるようです。こんな弱音はささないで、今回は通研の年中行事の一つとなった「通研シンポジウム」について簡単な報告をさせて頂きました。

通研シンポジウムの計画は永井健三先生の所長時代に行われたもので、その第一回は昭和三十九年に開かれております。一つの大学のなり研究が毎年定期的に行われるシンポジウムを主催している例は珍しいことではなく、例えばPIBのMicrowave Research Instituteでは一九五二年から毎年、当年のトピックスを選んだ、比較的大きなテーマで国際的なシンポジウムを開いて来ています。このようなシンポジウムはその性格上どうしても各自がその成果を持ち寄って披露するという意味が強くなり勝ちです。ところが通研シンポジウムは、勿論新しく重要な問題を優先して取り上げる意図はありますが、各自の

成果の持ち寄りに終ることなく、集まった同好の士が互に研究討論することが第一義であり、したがって必ずしも完成した仕事の披露だけでなく、未完成の夢物語りも大いに観望しようというものです。そのようなわけで毎年のテーマに関してはその選択に苦心するところでも、しかも多くの人々を集める意志はなく、比較的少人数の討論を企画するわけですが、やはり志と違わぬ毎年参加者が多過ぎ、いつも会場が人で溢れて会場を狼狽させる状態が続いています。通研シンポジウムもすでに世に知られ、今年も九回目を迎えることになっております。参考までに過去のテーマを報告しますと、(第一回昭三十九、二月)磁気記録、光波及びマイクロ波、量子エレクトロニクス。第二回(昭四十二年)超周波電子音響学(半導体中における超音波と電子の相互作用)。第三回(昭四十一、三月)

青葉山移転は完了し、目下画を一覧表(昭和四十七年理理学部が移転中。また川内三月現在)にしたものが次地区では、教養部の改築が完了し、目下文科系学部及図書館の新築工事が進捗中である。その模様と将来計



Artificial Intelligence。第した問題が取り上げられる四回(昭四十二、一月)薄膜電子工学。第五回(昭四十二、十二月)結晶育成。第六回(昭四十三、八月)Acoustoelectronics(このシンポジウムは東京で開かれた音響学国際会議ICAと関連して国際的意図により行われた。)第七回(昭四十五、一月)超電導の現状と将来。第八回(昭四十六、二月)音声情報処理。以上が過去八年間のテーマです。今年も第九回として来る五月に開催される予定で、テーマは弾性表面波に関連

三、授業料値上げに関する

東北工業大学の現況(便り)

東北工大 関 寅雄

本学は昭和三十九年四月我が国の産業振興に寄与する高度の技術者の養成を目的として、郵政互助会および東北大学等の協力によって創設され、既に九年目を迎えている。設立当初は僅かに電子工学科と通信工学科の後建築学科、土木工学科、工業意匠学科を増設し、現在五学科、学生数三千名、専任教員数約百名(

講師以上)の工業単科大学として発展している。学科増設計画は一応完了し、現在は既設学科の充実と力に注いでおり、また近い将来に大学院の設置が考慮されている。

設置場所は仙台市の西南部の丘陵地帯で眼下に太平洋を望み、背後に蔵王連峰を仰ぐ景勝の地にあり、また母校のある青葉山とは八木山橋によって通じてい

紛争に 昭和四 度には比較 であつた は、沖繩 という形 主として で行なわれ の秋から 値上げ反 して、そし がら、教 権を民衆 うという 本年一 二月一 養部は新 養部講義 ここに到 の間に、 自主管理 害も数十 二十一日 が紛争さ 一月二十 大会で無 決定した る学生た 批准期限 でに規定 には、同夜 の講義棟 ある。 二月九日 定している、 手段をとこ して三月二 うことを 業とする、 の話し合 た退去命 が、学生 料値上げ なる。交通 のバスが 時間は約二 建物には 六号館ま は教室が 利なので、 として利 現学長は 北大学電 の内田英 五郎初代 学内の充 的取り 教員の大 係者で、 である。 五〇名、 名である。 北、北海 国の各地

一トして、自主管理の要

求、留年制、除籍制(二倍

以上の年数は在籍出来ない

ことになって(の撤廃

要求などを強く主張、教養

部教官の説得を聞き入れな

かった。

一方この講義棟は三月三日

からの入学試験場に予定さ

れていたもので、評議会の議

を経て、学長は、二月二十

日に限って封鎖学年の退去

命令を発したが効果なく、

入試試験場の変更を余儀な

くされた。東大、阪大、京

大等多くの大学がこの段階

で機動隊の力を借りて入試

を行なったのであるが、本

学はこの段階でなく、教養

部定期試験の直前の三月十

九日早期に警察力の力を借

りて封鎖解除を行なった。

以後約十日間、大体機動隊

常駐の形で試験は終了した

みちのくの街盛岡から

岩手大学 工学部

佐藤 淳

北に岩手の秀峰、東に雄

神山、西に駒ヶ岳、南に早

池峯、美しい山々に囲まれ、

啄木が「やわらかに」と歌

った北上川が再び往年の清

流をとりもどした。北国

の街盛岡にも漸く春がめく

ってきた。今年の冬は

当地も例年になく暖冬で、

降ったと思つた雪もすぐ消

え、スキーヤーをがっかり

その八幡平に行く途中を

左に折れると松川温泉、秋

の紅葉がきれいです。こゝ

には有名な地熱発電所があ

り、所長さんは同窓の佐藤

先輩です。昨年筆者が見学

にお伺いした折もいろいろ

お世話を頂いて参りました。

本堂に同窓の先輩後輩

という同じ釜の飯に通ずる

何ものかは常に温かく嬉し

い限りです。今迄も折にふ

れお世話になった皆様、心

この場所をおかりして、心

から御礼申し上げます。心

来れば甘えさせて頂きたい

ものと思つております。

筆者の職場も去る年大森

忠夫先輩をお迎えしてから

今度更に三名を加え、この

四月からは総勢一三名とい

う同窓の顔ぶれがみられる

ことになりました。

入江先輩は諸事に相変ら

ず、試験を延期

に教養部は、強行

り定期試験を予

に教養部は、強行

り定期試験を予

に教養部は、強行

り定期試験を予

に教養部は、強行

り定期試験を予

に教養部は、強行

り定期試験を予

に教養部は、強行

の就職係をひきうけて下

さった一戸先輩です。学生

の諸要求と求人各社の希望

を、最高のパワーで接続さ

せるためのインビッドンス

交換素子として、献身され

ておられる。今は会議室の

額の中からじつと我々をみ

つめておられる故草刈先生

が最も信頼されたお弟子さ

んの一人として科内でなく

てはならない人になってお

ります。和漢の古典に通じ

漢詩ものさされる、荏苒と

して温い人柄は、当節、イ

ンビッドンス交換素子とし

ても誠にうってつけといえ

るのでしょうか。科や学生

のために身軽に動かれるお

姿は、その太ったお体と反

対で、前工学部長を感心さ

せたものです。志田さんは

この四月から電気工学科主

任、湧井氏は、近頃貴重な

電気機械やさんとして研究

生活にあけくれ、百足さん

は長い闘病生活をみごとく

切り抜け戦術復帰、菊池孝

氏は補導委員として学生の

世話に苦勞され、照井氏

は、電子計算機と人間の関

のことで汗みどろ、東京と

盛岡を往復、柏葉氏は若さ

にものをいわせ菊池氏と共

に学生のよき兄貴として補

導委員という重責を果され

ておいでです。更に今回、

三浦、横山、田山の三氏を

夫々、秋田、仙台、大宮か

らお迎えすることに、エネ

われわれの職場に更にエネ

ルギーが注入されることに

なりました。

近くの一関工専には、六

戸大先輩がおられ、八戸工

専にも佐川氏らが活躍され

伺うたびに元氣なお姿に

心強く存じております。盛

岡市および県内にも、数多

くの同窓の先輩後輩諸氏が

おられ、今年こそ、あの八

幡か本町の綺麗どころをま

じえ、外山節などを伴奏に

一堂に会する一夕を持ちた

いものと夢みておりますが

如何でしょうか。

取らぬ、小生の極く近辺

に関する記事のみとなりま

したことをお詫びしつゝ盛

岡からの便りの第一号とさ

せて頂きます。

同窓の皆様御健康と御

活躍を、みちのくの片すみ

からお祈りしつゝ、筆をおき

ます。

の便も、最近はお

駅前から数系統

通っており、所要

十分である。

現在、一館から

あるが、一館館

中して運営が便

利であるが、一館館

中して運営が便

利であるが、一館館

中して運営が便

利であるが、一館館

中して運営が便

利であるが、一館館

中して運営が便

利であるが、一館館

中して運営が便

利であるが、一館館

中して運営が便

利であるが、一館館

中して運営が便

利であるが、一館館

中して運営が便

利であるが、一館館

中して運営が便

利であるが、一館館

中して運営が便

利であるが、一館館

中して運営が便

利であるが、一館館

中して運営が便